

## 平成28年度 長野市産業振興審議会 第4回 観光振興専門分科会会議録

日 時 平成29年1月26日（水） 午後3時から午後4時40分まで  
場 所 長野市役所 第一庁舎7階 第二委員会室  
出席者 委員（13人中12人出席）  
事務局6人  
長野市観光振興計画策定の支援業務受託事業者 2人

### 1 議長選出

長野市産業振興審議会条例第6条の規定により、以下のとおり選出  
議長：笠原 甲一 委員

### 2 議事（要旨）

#### (1) 長野市観光振興計画（案）に対する市民意見等の募集結果について

- 資料1 「長野市観光振興計画（案）に対する市民意見等の募集結果について」
- 資料2 「長野市観光振興計画（案）概要版」
- 資料3 「長野市観光振興計画（案）」
- 資料4 「長野市高度情報化基本計画（案）抜粋」
- 資料5 「長野市観光振興計画（案）その他加筆・修正箇所」
- 資料6 「長野市観光振興計画策定スケジュール」

以上資料に基づき事務局説明

#### ■その他の加筆修正箇所

- ・資料3の26ページ、総宿泊客数の目標値について、善光寺御開帳の開催年である平成33年度は平成27年度比10%増を見込む。御開帳の無い平成29年から平成32年の間は、毎年2%増を見込む。外国人宿泊客数については、5年後の平成33年に基準値から20%増、平成32年は東京オリンピック・パラリンピックの開催年であるため、その年のみ30%増として目標を設定。
- ・前回の第3回分科会における意見による修正箇所として、資料3の35ページ、事業1-3-3 おもてなし意識の醸成の部分で「NAGANO検定」が効果的であるとの意見があったことを踏まえ、主な取組内容に「・NAGANO検定を通じた地域意識の醸成」の文言を加筆。
- ・資料5について、資料3の該当するページは45ページ、「2）アクションプラン検討の進め方」の（市・ながの観光コンベンションビューロー・専門家）の部分で「市」を加筆。同じく（市・ながの観光コンベンションビューロー）の部分についても「市」を加筆。
- ・同じく資料5、資料3では46ページ、1行目の「ながの観光コンベンションビューロー」の前に「市」を加筆。同じく「● ながの観光コンベンションビューロー」の前に「市」を加筆。

- ・同じく資料5、資料3では46ページ、「(5) アクションプランの進め方」について、「作業部会において、前頁の『アクションプランの検討の流れ』に沿って検討した後、それらの実証と修正を繰り返しながら、アクションプランに示される成果指標の達成を目指します。なお、詳細のスケジュールは各作業部会で検討の上決定します。」と修正。

■今後のスケジュールについて

- ・資料6の平成28年度の1月25日、本日の第4回専門分科会を経て、2月2日に第3回産業振興審議会を予定している。ここで了承を得られれば、庁内における部長会議に付議され、庁内の決定となる。その後、議会の各会派への説明、そして2月16日に記者発表というスケジュールを予定している。

<主な質疑応答及び意見>

■市民意見の内容と市の考え方について

委員：(資料1の4ページ)多言語化促進について、「スマートフォン等の情報通信機器の活用を含む)」の追加は良いことであると思う。インフラ的な部分があると思うが、この観光振興計画にはインフラ整備のような(ハード的な)部分も含むものであるのか、ソフト的なものだけであるのか、棲み分けが良く分からない。

事務局：基本的にはソフト部分が多いが、例えば計画(案)の33ページ下段「スポーツや文化芸術、文化財などを切り口としたコンテンツ開発」の主な取り組み内容において「戸隠、飯綱エリアのグリーンシーズンの誘客強化に向けた、キャンプ場や遊歩道、トレッキングコース、アクティビティ施設等の整備・充実」とあり、この部分はハード的なものになる。また、インバウンド推進に向けた看板の設置や案内表示等の充実もハード整備に当たると言える。ソフトとハードが混在しているとも言えるが、方針に沿ったハード整備については、可能なものは盛り込んで行きたいということで計画の策定に取り組んで来たところである。

委員：実施する主体は観光振興課以外のものも入っているのか。また、盛り込んでいるものはどうするのか。ハード面について盛り込むのは問題無いということの良いか。

事務局：計画策定にあたって、庁内の関係各課との連携が大事であるということをお前提としており、調整を図りながら可能なものは盛り込んできた。ここに記載したものは「主な取り組み」であり、ここに記載が無いから実施しないというわけではない。予算を伴わないと実現できない事業もあり、希望的なものだけで盛り込む訳にも行かない。ある程度方向性として見込まれるものについて盛り込んで行きたいと考えている。

■パブリックコメントについて

委員：今回寄せられた4件のパブリックコメントについて、寄せられる意見の件

数としてはこの位の件数であるのか。

事務局：今回は、長野市の総合計画が新しくなることに合わせて、観光振興計画以外にも多くの個別計画が策定され、同じタイミングでパブリックコメントを募集している。

今回の観光振興計画では2人から4件のパブリックコメントということで、少ないものと認識している。

委員：今の質問に関連して、現行の観光振興計画の策定の際にはパブリックコメントを実施しているのか。

事務局：現行の計画については、策定にあたって市民ワーキンググループを実施する等して、市民意見を取り入れているという経過を踏まえ、パブリックコメントは実施しなかった。

委員：長野市総合計画の関係で、先日「未来カフェ」というものが行われた。市民の方々と総合計画の審議会委員との懇談会のような形式で初めて行われ、約2時間の予定が、その時間内に終わらないほどであり、各テーブルも満員であった。

その場所でご自身の意見がクリアできた方が結構いたのではないかと感じている。パブリックコメントが少なかった理由の一つかもしれない。

委員：「未来カフェ」の内容から抽出された意見は、パブリックコメントとして反映はされているのか。

事務局：当日話し合われた内容についてパブリックコメントに出してください、という案内であった。出される方、その場で納得された方、まちまちであったと思う。

当日は、観光振興であったり保健福祉であったりテーマごとにテーブルが分かれており、入れ替わりはあったが、観光のテーブルにも常時10人程度の人が集まっており、いろいろな話がされていた。

委員：観光振興計画は「方向性」を示しているものである。例えば、長野市は「食」が弱いとよく言われるが、具体的に「食」を入れて行くのか、といった具体的なものはこれからである。

事務局：「食」や「お土産」が長野市の弱点という認識は持っている。観光振興計画作りの中でも、「食」「お土産」に触れている部分がある。

今年度NHK大河ドラマ「真田丸」の放送に伴い、非常に多くのお客様に松代にお越しいただいたが、「どこで昼食を取れば良いのか」「お土産は何を買えば良いのか」というのが問題であった。

地元の皆さんも食のメニューを考えたり、来年度はどうやって観光客に対して訴求力のあるものを仕上げて行くかという部分は、大きな課題となっている。

■NHK大河ドラマ「真田丸」放送に伴う松代における取り組みについて

委員：上田市では、ドラマ館の前に飲食店のブースを長屋のように設えていたが、どのような仕組みで行っていたのか。

事務局：ハード（プレハブ建物）部分は、上田市がかなり関わっていると思われる。松代においては、真田公園内に「真田丸ショップ」を設えて、地元の方が、地元の物産を売っていただいていた。結果として黒字となり、売り上げについて「松代観光推進機構」に寄附をした。

どうやって観光客にお金を使ってもらい、お金が地元で循環する仕組みを作れるか、ということが大事であると思っている。

委員：松代の飲食店は「観光客向き」では無く「地元の人向き」と感じている。

ちょっとでもお店の雰囲気や店構えを変えたり、接客を観光客向きに変えれば、ずいぶん変わるような気がする。

委員：飲食店で大事なものは「人」である。地元が観光客向きにしようという機運が起きないということは、やる気のある若者がいないということ。

そういうことであれば、（松代の）外から人を呼び込んで、松代で商売をするならば特典がありますよ、応援しますよ、というような態勢を整えることを、行政や街の活性化を進める団体が考えるべきであると思う。

松代の良い場所、建物に誘致すれば、チャレンジしたいという人はいると思う。松代にはせつかくこれだけの環境と建物等が残っているのだから、それらをいかに活用し、人材を集めるか、ということになる。人材をどうやって集めるのかということに、もう少し知恵が絞れるのではないかと思っている。

長野の街には、古民家を活用して出来た良いお店が多くある。松代は（古民家の）宝庫であると思う。

事務局：松代でも、空き家対策で動きが出てきている。行政でも、松代の中心街を対象とした空き店舗活用事業のメニューがあり、産業政策課で補助を行っている。

#### ■32ページの事業1-2-1「長野市ならではの」の食事やお土産（飲食物）の開発支援に関して

委員：先ほどまで話されていた内容は、前向きの、夢のある話であった。そのような内容がこの観光振興計画（案）に書かれているのかどうか。市役所の関係課との連携にも関わってくると思う。

32ページの事業1-2-1、「長野市ならではの」の食事やお土産（飲食物）の開発支援には、先ほど話があったような具体的な内容は書かれていない。

事務局：事業1-2-1の「主な実施主体」には、市の関係各課、ながの観光コンベンションビューロー及び各観光協会が記載されているが、これで足りるのかということも感じている。

委員：主な取組内容に、これまで話した内容を追加で盛り込むことは可能なのか。

それとも、現在書いてある内容で包括されるのか。

事務局：どこまで記載するかということに関わってくると思うが、アクションプランで整理した方が良いと考える。

## ■インバウンド対策について

委員：インバウンド向けの施策で、外貨の両替対策は必要であると思うが、どう考えているか。

事務局：平成27年11月末に、長野駅の長野市観光情報センター（観光案内所）の中に、自動外貨両替機を設置した。

実績とすると、少ない月でも100万円を超え、一番多い月で300万円を超えた時もあった。

日本人が外国に旅行に行った際にはどこでも両替ができるが、日本では銀行が空いている時間にしかできない。外国人旅行者からは非常に好評を得ている。

委員：両替が出来る場所をもっと増やすことも大切であると思う。両替の対策に限らず、実際に来ている人が困らないように、ハード・ソフト両面で体制を整えることが、本来の意味でのサービス・おもてなしであると思う。

委員：インバウンド対策はすべて観光振興課が対応するのか。

事務局：外国人観光客の受け入れ環境については、基本的には観光振興課が担当するが、外国人観光客が喜ぶようなものとなると、農作物であれば農業政策課、物産であれば産業政策課など、関係各課との連携が必要となる。

現時点でも、地元の食材を市内ホテルで提供していただくなどの取り組みをしているが、より一層の連携を深めて行きたい。

インバウンド対策はまだ始まったばかりであり、改良しながら実施してゆくことが必要であると考えている。

委員：外国人観光客向けに限らない話であると思う。クレジットカードが使えるお店やお金が下ろせるキャッシュディスプレイ機が増えたり、二次交通が充実することは、当然に国内の観光客の利便向上にもつながる。

事務局：お店や事業者の意識改革も課題であると認識している。

委員：多言語化に関しては、まずは日本語のローマ字表記からでも良いのでは。4カ国語や5カ国語となるとスペースの関係もあり、すぐに対応することが出来ないかもしれない。

委員：飲食店のメニューは、写真と英語表記があれば指差しで出来る。

委員：ベジタリアンの人は、食材・中身に何が入っているか気にする人もいる。

委員：この分科会に出席していることにより、メニューの多言語化などの情報を知ってチャレンジしているが、一般的にはあまり知られていないのではないかと感じている。もっと情報が伝わるようになれば良いと思う。

## ■戸隠地区について

委員：戸隠地区の駐車場の利便性についてお聞きしたい。秋に知人と戸隠を訪れた際に、渋滞で困った経験があるので、状況を知りたい。

事務局：戸隠神社の中社エリアまで行けば、駐車場は比較的ある。

ハイシーズン（ゴールデンウィーク、お盆、紅葉の時期）には周遊シャトルバスも運行しているが、シャトルバスの発着所が戸隠スキー場の駐車場であ

り、長野方面から行くと中社エリアを越えて行かなければならない。中社の手前で渋滞が起こってしまう状況である。

渋滞対策は課題となっており、戸隠観光協会の方とも話をしている。中社の手前でパークアンドライド方式等が出来れば良いのだが、まだ具体的になっていない。

渋滞が起こるのは、ゴールデンウィーク、お盆、紅葉の時期の数日と認識している。

数年前に戸隠神社奥社の入口にも駐車場が整備されたので、駐車場の台数はそれほど問題ないと考えているが、中社、奥社に行く前に渋滞が起こってしまう。

委員：観光バスは信濃町方面から上がってもらい、長野方面からは上がらない、というように統一をすれば、ずいぶん解消されると思う。

委員：基本的に道幅が狭い。1台でも道路脇に止まってしまうとそこから渋滞が始まってしまう。中社手前の坂が渋滞の発生ポイントであるが、原因の一つがチビッコ忍者村に行くための道が狭く、すれ違い等で車が一旦止まってしまうとそこから渋滞が始まり、奥社方面に行く車とチビッコ忍者村に行く車が中社手前で渋滞する、という状況となる。

委員：車を入れないようにして歩いてもらう、ということも必要なのではないか。

目的地の近くまで車で行くという「車社会」の考え方ではなく、観光地の中には車を入れないようにし、公共の乗り物を利用するか、歩いてもらう、という時代が目の前に来ている。

委員：観光客に情報が届いていないということもあるのではないか。道路案内や掲示板の必要性を感じる。

委員：前回の善光寺御開帳の渋滞対策の成功例があるので、各観光地で運用できるような形が望ましい。

渋滞により目的地まで時間がかかってしまうのはもったいない。観光客がスムーズに周遊できないのは機会ロスであり、売り上げの損失である。

#### ■中山間地域について

委員：資料3の46ページのアクションプラン「日本の原風景を満喫する、中産間地域の魅力発掘・コンテンツ開発プロジェクト」に期待をしている。

「希望する地域を募り、部会を形成する」とあるが、中山間地は長野市内に多くある。地域で手を上げれば採用してくれるのか。

事務局：現在想定しているのは、鬼無里、信州新町、中条など、現時点で、ある程度の観光コンテンツを保有し、観光に結びつけ、周遊が可能になりそうな地域にお声掛けをし、アクションプランの中で議論をして行きたいと思っている。

中山間地に限らず、それぞれのアクションプランの部会のメンバーについて考え始めたばかりであるので、新年度に向けて準備をして行かなければならないと考えている。

中山間地については、地域の方のご意見をお聞きしながらメンバーを募るようになりたいと考えている。

委員：いろいろな切り口があると思うが、中山間地域の単独では難しい部分もあると思う。少人数のグループを受け入れるチャンスを、少しずつでもPRできるようにして行ければ良いと思う。

委員：市役所の支所に配属されている「地域きらめき隊」（市職員）や、都市圏から移住してきた地域おこし協力隊員が、地域に入って活動をしたり、地域のPRをしている。コミュニケーションを密にして行ければ良いと思う。

#### ■スポーツと観光について

委員：AC長野パルセイロについて、市のスポーツ課も関係すると思うが、宣伝や観光的なアプローチは出来ないのか。せっかく素晴らしいスタジアムが出来た。

委員：Jリーグのチェアマンがスタジアムを褒めていた。また、パルセイロの良いところとして、サッカーだけでなくAC（アスレチッククラブ）として、いろいろなスポーツのクラブチームを作っていることを評価していた。長野のスポーツ文化が、今後長野の観光の目玉になる可能性は高いと言える。オリンピックの開催都市として、スポーツを観光に取り入れることについて、もう少し考えても良いと思う。

委員：現状の話をする、スポンサーが出すスタンドの看板に、アウェイ観戦客に向けた「ようこそ長野市へ」という看板を出している。

来年度は、アウェイの試合において、現地で長野市のPRをしたいと考えている。但し、（PRやブースの出店等を）実施出来るスタジアムと出来ないスタジアムがある。長野のスタジアムでは実施できるが、出来ない所の方が多いようである。

委員：駅前に、観戦客向けに親しみやすい案内が必要であると思う。

事務局：以前は長野駅から観戦客向けのシャトルバスが出ていたが、現在は篠ノ井駅を玄関口としている。

アウェイツーリズムとして、相手チームの観戦客が多く来ていただいて、長野の観光地を巡っていただき、出来れば一泊していただきたい、という思いもある。しかしながら、アウェイの観戦客が少ないのが現状である。早くJ2に昇格するよう願っている。パルセイロレディースは頑張っている。これまで、アウェイの入り口で観光パンフレットを配布するような取り組みを実施した実績がある。

委員：長野市だけでなく、北信地域という考えは出来るのか。

事務局：長野市だけでなくサポーターズクラブがあることと、スタジアム建設中には佐久のグラウンドを使用していたため、佐久方面との連携があったり、ゲームに招待をしていた。

委員：長野市や近隣市町村の人で、サッカーを見に行ったことが無い方が結構いるのではないかと。実際に観戦して見るとファンになる人もいます。まずは、一

回してもらおうということが必要であると思う。

委員：小中学生の子ども達に観戦にきてもらう取り組みも必要なのではと思う。

委員：昨年、スケートの大きな大会がエムウェーブで開催されたが、大会のおかげで宿泊関係はずいぶん良かったようである。また、近く冬季国体が開催されるので、宿泊関係には厳しい冬の季節に一息付けるようであり、大きな経済効果が期待できる。

#### ■経済波及効果について

委員：今回の観光振興計画の策定における大きなポイントは、1,381億円という経済波及効果を設定したことであると思う。

目標額を達成するためには、どれだけ観光事業者が盛り上がるかどうかにかかっていると思っている。観光事業者との連携強化とあるが、観光事業者に稼いでもらうための企画であるということを意識して、この計画をPRしてもらいたいと思う。

委員：計画の最終的なゴールは、地元の事業者にお金を稼いでもらい、それが税金として市に入ってくることであると思う。行政は後押しをするが、実行に移すのは事業者である。

委員：資料3の2ページに「本市経済の活性化の実現」とあるところで表現されていると理解する。

以上